

元気で新しい八尾のまちづくりを考える市民懇談会(第2回)

議事概要

日 時：平成 20 年 12 月 25 日（木） 午前 10 時から正午まで

場 所：教育センター集会室

出席者：委員 18 人（欠席 2 人）、事務局 11 人（内コンサルタント 4 人、補助スタッフ 1 人）

1. 開会

- ・事務局から、本日の市民懇談会に関する配布資料の説明がありました。

2. 座長挨拶

- ・初谷座長からご挨拶がありました。

・前回の第 1 回市民懇談会では、八尾のまちの際立った特色、これからの時代の環境変化を踏まえて今後大事になってくると思われることについてご意見を述べていただきました。本日は年末のお忙しい中ではありますが、第 2 回の市民懇談会ということで、前回同様に活発なご意見をいただければと思っています。

3. 議事

1) 本日の進行について

- ・本日の会議の進行について事務局から説明しました。

・第 2 回と第 3 回の市民懇談会では、施策別総括シートを素材として、市民の視点から今までの成果や課題についてご議論いただきたいです。本日のご意見と後日いただく追加意見を事務局でまとめ、それを基に第 3 回の市民懇談会で再度ご意見を頂戴します。そうした経緯を経て、第 4 次総合計画の総括評価と第 5 次総合計画策定に向けての課題整理を行い、最終的な総括レポートを平成 21 年 3 月の市議会へ報告させていただきたいと思っています。

・本日は、全体会議の後、各グループに分かれて議論いただきます。学識委員には各グループの進行役をお願いします。各グループで議論いただく課題については、資料 14 を参考として下さい。

<各グループの論題一例（資料 14）>

グループ 1 【地域を担う組織や人材】

少子高齢化、核家族化により家族の機能が低下している中で、今後自治会がどのようにあるべきか、そのあり方について議論して下さい。

グループ 2 【社会参加と生きがいの促進】

団塊の世代が地域づくりに参加するためにどのようなきっかけをどのように作り出せばいいか議論して下さい。

グループ 3 【「自転車利用の適正化】

八尾市は自転車利用者が多いが、放置自転車も多いためバリアフリーの観点から問題が多い。マナーの点も含めて議論して下さい。

グループ4 【次世代を担う世代の育成】

少子化の傾向が依然として進んでいます。今後の子育て支援などについて議論して下さい。

2) グループ討論（1時間 10分）

・4つのグループに分かれて、第4次総合計画の成果と課題について意見交換をしていただきました（各グループでの委員の意見は別紙の通り）。

3) 全体発表

・グループ討論の後、各グループから発表がありました。

<グループ1「市民参画、行財政運営、環境」>

- ・過去10年間の総合計画は先見性が非常にあって素晴らしいものであったと思います。しかし、ラウンドテーブルについては、この10年の間に、もっと実践して推進できればよかったと思います。
- ・具体的な例としては、バリアフリー化ではエレベーターが設置されるなど目に見える成果がいくつもあります。しかし、出来上がったものに対して過去10年間で振り返ると、本当の利便性につながっているのだろうか、フィードバックを市民にできたのだろうかという点が問題であり、情報提供を市がリーダーシップを取って行っていただきたいと思います。そうした点では、市民活動の中間支援組織についても市民が深く認識するまではまだまだ時間を有すると思います。
- ・自治会についても、NPOとの連携が進むように、市もリーダーシップを取っていただきたいと思います。例えば、企業が市民活動に参加することも過去10年間の成果であると思います。そうした企業と協力を行うことも必要ではないでしょうか。
- ・市民パワーは既に色々と発揮されています。そうした点で親しみやすいまちであることなどを全国発信するなどの課題が残っています。行政と市民、企業が連携し、小学校単位を1つの地域として広報の仕組み、発信方法に力を入れることを提案したいと思います。

<グループ2：「健康福祉、安全・安心、住宅」>

- ・評価のあり方について疑問があります。総括シートには載っていないが、実際にはされている取組がたくさんあるように思われます。また、たとえば、市民が“おおむね満足”しているという評価がありますが、生命に関わる課題であれば“おおむね満足”では済まされない。“不満”という意見が少しであったとしても、それは重要な問題となるのではないかと思います。
- ・行政の自己評価と市民の評価に差があるものがいくつかありますが、その要因についての分析が行われていません。行政の自己評価で達成していても、市民の評価が高まっていなければ課題ではないでしょうか。
- ・ボランティアなどは、市制60周年を迎え積極的に行われているので、今後も継続してできるようにしていかなければならないと思います。また、障害者や高齢者の就労について市役所自身が法定雇用率を達成しなければならないのではないのでしょうか。

- ・シルバー人材センターやネットワークセンターなど、シニア世代が活躍できる場を作るのであればそうした環境を整えていかなければならないと思います。
- ・救急や市民病院の課題についてもいくつか議論が出ました。

<グループ3：「産業、農業、土地利用、交通」>

- ・工業について、八尾は「ものづくり」のまちとして産業集積が全国的にも有名ですが、現在その仕組みが崩壊しつつあります。工業が衰退し住宅地と変化している現状をどのように改善していくのでしょうか。土地利用について、今までのよきを守っていくことが必要なのではないのでしょうか。
- ・観光について今まで八尾は力を入れてきませんでした。今後は八尾も行政が中心となって観光に力を入れていかなければなりません、その際、従来の「遊び」を中心とした観光ではなく、産業や地域コミュニティ、環境など違った意味での「観光」について考えていかなければならないと思います。そこで、まずは八尾には観光に関する組織（観光協会、観光ボランティアなど）づくりが必要だと思います。八尾は歴史、自然、ものづくりなど観光資源が豊富であり、それを活用すべきです。そして行政も観光についての位置づけをしっかりとしてほしいです。
- ・農業について、数は少ないががんばっている、観光と関連させてPRを行い活性化させていく必要があると思います。また、農家を支援する施策も必要です。
- ・商業については、空き店舗が増えているのでそうした店舗をうまく活用していく必要があります、今後検討していただきたいです。

<グループ4：「人権、子ども・子育て、教育、文化」>

- ・学校、地域、家庭を結びつけるネットワークが少しずつできてきましたが、まだまだ不十分であり、学校が中心となってどのようなネットワークを構築するかを考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・「人権のまち八尾」として、「生きる力とは何か」について、学校を中心として考えていただきたいです。
- ・教育サポートセンターができたことは評価できますが、中身についての認識はいまだに広がっていません。教育をサポートするのであるから、教員を支える体制、研修制度もこのサポートセンターで担う必要があります。
- ・教育サポートセンターやファミリーサポートセンターが確立されている点は評価できますが、それらの情報を共有する仕組みがまだまだ不十分です。市は情報を共有するための広報活動に力を入れていただきたいです。

- ・全体発表を受けて、学識委員から、ご意見をいただきました。

- ・参加者の皆さんが、現状および課題についてしっかりと把握されている印象を受けました。私は福祉が専門ですが、高参加・高福祉という考え方から市民がしっかりと今後について考えていらっしゃるの期待を持っています。
- ・企業は地域との間で様々な役割を持っています。産業集積を中心に考えたが、産業集積は非常に難しい課題であり、八尾市にとっても企業にとってもいい形を検討してい

かなければなりません。

- ・約 100 ページに及ぶ資料に対して多くのコメントが寄せられていることに感銘を受けました。教育を中心に議論したが、教育と地域の課題を、学校を中心としたネットワークによって解決していくことが重要であると感じました。評価に関して、どのようにパーセンテージを算出したのかなどわからない点がいくつかあります。生涯学習講座については目標値が下がっているなど数値についてご説明をいただければと思います。

- ・学識委員のご発言の後、初谷座長からまとめがありました。

- ・意見交換を通じて、「参画と協働」などの方針をうたうだけの時代は終わったのだと感じました。計画から実践の過程において行政側の役割がさらに問われる時代になっていることを痛感しました。いくつかの分野別計画のパブリックコメントが年度内にまとまるようであるが、それらと総合計画が連動していないと、官と民がどのような役割を担うべきなのかを明確にした総合計画が描けないでしょう。
- ・今回たくさんの資料があるが、その中で総合計画と財政の関係についてはどうあるべきかという問題提起がなされています。これは非常に大きな問題であり、総合計画と財政の問題についてはさらに議論を深めていく必要があると考えています。
- ・行政と民間が連携して八尾独自の人材育成に力を入れる必要があると思います。

4) 今後の日程について

- ・事務局から今後の日程等について説明をしました。

- ・次回の市民懇談会では、第 1 回でのご意見、本日の検討内容の集約、追加コメントの整理に基づき、第 5 次総合計画に向けた課題整理となるような総合的な検討をしていきたいと考えています。
- ・今後の予定として、追加コメントがあれば、1 月 7 日（水）をめぐりに事務局まで送ってください。次回の第 3 回市民懇談会は、1 月 24 日（土）午前 10 時から教育センターで開催します。時期が近づけば再度ご連絡させていただきます。
- ・1 月末をめぐりにコメント等を確定し、2 月初旬に総括レポートを完成させる様取り組んでいます。そして、2 月の中旬頃に市議会へ報告し、一般に公表したいと考えています。なお、第 4 回目の市民懇談会は 3 月 2 日（月）午前 10 時から教育センターで開催します。

4. 閉会

- ・最後に初谷座長からまとめがあり、閉会しました。

- ・非常にタイトな日程ではありますが、次回もご参加をお願いします。次回の市民懇談会では、本日の議論をさらに深めていきたいと思っています。ご協力ありがとうございました。

以 上

【別紙】グループごとの委員意見

グループ1 (市民参画、行財政運営、環境)

- ・ ラウンドテーブルについては、10年前の発想としては良く、先見性もあったと思いますが、早すぎた感があります。やっと時代が追いついてきました。市職員の中にも進めていくのだという実感がもちにくかったのではないのでしょうか。そのため実践が伴わなかったように思います。住民からの自然発生的な動きを待つよりも、最初は行政からの働きかけやサポートが必要でしょう。
- ・ 八尾市に住んでいる職員が、地元の地域活動に参加するようになればよいでしょう。職員が住民といっしょに地域活動を進めていくなかで、自治を担う人材が地域に育っていくのではないのでしょうか。自然発生だけでは人はなかなか育たないでしょう。
- ・ エレベーターの設置などバリアフリーの整備が進んできていると感じますが、整備方法に統一感がないように感じます。また、整備して終わりではなく、整備をしたことを市民に情報発信していただきたいです。
- ・ 八尾市民活動支援ネットワークセンター「つどい」(中間支援組織)については、活動が右往左往している様子であり、テコ入れが必要です。
- ・ 地域担当職員を配置するのであれば、ごみ収集の職員や学校の関係者など、地域の変化を毎日見ている職員が担当になれば、地元のことがよくわかってよいのではないのでしょうか。
- ・ 自治会になぜ加入しないのかが疑問である。自治会が、行政情報の広報や防犯や防災、環境に関わる取組をするなど、活動を充実させていくことが必要ではないのでしょうか。NPOの活動とも連携できるとよいと思います。
- ・ 環境に関わるトータルプランやビジョンを、行政がリーダーシップを発揮して打ち出していくことが必要ではないのでしょうか。水やごみといった狭い分野だけでなく、太陽光発電など幅広い内容を含めた方針が必要です。
- ・ 行政から、ぶれない方針や理念を示して欲しいです。今は、こんな八尾市にしたいというビジョンが共有できていない。常に到達点(ポジション)をふりかえることができるビジョンを総合計画に盛り込んで欲しいです。
- ・ 市民から意見を吸い上げるよりも、地域のことを熟知している行政側から「どうあるべきか」という姿を打ち出していかないといけないのではないのでしょうか。
- ・ 地域経営・市民参加というのはもう古くて、今や、それを踏まえた行政の主導性、リード力が求められています。
- ・ 若い世代が自治会離れを起こしています。地域活動に若い人を入れることが重要です。
- ・ 従来型の行政主導の自治会は、世代交代の時期です。新たな自治会のあり方を考えてい

くことが必要でしょう。企業の若いリーダーの養成を早くやるべきです。

- ・ リーダーが必要な時代です。
- ・ 若者主体の活動も出てきています。市民グループが一堂に会して重なり合うのが理想ですが、グループが点々として重ならないことが問題です。
- ・ コンダクターとなるような組織が必要です。歴史的に、八尾市では、団体がうまくつながらない傾向があるようです。
- ・ 河内音頭まつりにしても、市民のまつりになっていないです。踊れる人が少ないと思います。特定の人だけが盛り上がっているのが実態です。全国発信するのであれば、小学校で教えてはどうでしょうか。以前に比べると、多くの人が企画・運営に参画しにくいまつりになってしまいました。
- ・ 市民のまつりとしていくためには、文化や国際交流などともつなげていくことが考えられます。河内音頭は国際交流にもなりえます。また、主に企業協賛に頼るのも良くないのではないのでしょうか。
- ・ 自治会については、小学校単位で行われている様々な地域活動の動きと連携できればよいのではないのでしょうか。
- ・ 自治会には、必ず若者を委員に入れるべきです。

グループ2 (健康福祉、安全・安心、住宅)

- ・ 市制 60 周年での様々な取組をきっかけとして、ボランティア活動が活発に行われるようになってきています。今後の継続が課題でしょう。
- ・ ボランティアで頑張っている人に対して、お茶の 1 本も出ていません。何とかならないものでしょうか。
- ・ 河内音頭まつりなどは多くのボランティアが支えています。全員がボランティアとして関われば、開催費用も節約できるのではないのでしょうか。
- ・ 様々な施策が実施されているが、市民の生活実感につながっているかどうかということが大切である。例えば、自転車と歩道に関する総括シートを見ると、実際には歩きにくいと感じる人の割合が増えてきています。市民意識との乖離が生じているかもしれません。
- ・ 現在、どういった課題があるのか一覧にすべきであり、その課題について市民が評価する仕組みづくりが必要です。
- ・ 市民参加による行政と市民の協働が必要であり、行政は市民の声に耳を傾け、その声を市政に反映させるべきです。
- ・ 行政だけでは限界があります。だからこそ市民と行政は協働する必要がある、行政は市民の声を反映させる必要があります。
- ・ 各施策に関して PR 方法の検討が必要だと思われま。
- ・ 市のホームページを見ましたが地域福祉計画の情報が見当たりません。また、ホームページが見にくいです。

- ・ 地域福祉に関して市はどのくらい関与しているのでしょうか、市の取り組みが見えてこないです。
- ・ 高齢者の生きがいを創り出すため、ネットワークセンターについて全市民のさらなる認識が必要です。
- ・ 在宅介護支援に関して、問題意識がしっかりと把握できていないように思われます。
- ・ 障害者の自立支援、就労支援についてですが、市役所自身が法定雇用率を満たしていないことなどから、市は本当に取り組む気があるのかと思ってしまう。
- ・ 高齢者福祉基金の使用方針の見直しが必要です。
- ・ シルバー人材センターは、登録者が増えているにもかかわらず、施設が狭すぎます。
- ・ シルバー人材センターについては情報不足のように思われます。登録人数は増えているものの就労がなかなか進みません。支援が必要だと思います。
- ・ 保育所の待機児童については、支援施策が充実していないことが原因だと思います。
- ・ 色々な人が使いやすい施設、興味を持つ施設にするためにはバリアフリー化、ユニバーサルデザインのさらなる推進が必要です。公園について、「バリアフリー化は進めていますが、ユニバーサルデザインの考え方では作っていません」などと職員から説明を受けました。職員と市民との間にユニバーサルデザインについての認識、考え方にズレが生じているように思います。バリアフリーだけでなく、ユニバーサルデザインを含めた推進が必要です。
- ・ 公共施設は誰でも使えるような施設を目指すべきです。
- ・ 高齢者のことを考えた施設づくりをさらに進める必要があります。
- ・ 現在、年末の町会夜回りが行われていますが、八尾市はひたくりが非常に多いので、年末だけではなく、通年で夜回りをしていただければよいのですが。
- ・ 通学路の安全確保など民間だけでなく、行政もボランティアに参加していただきたいです。
- ・ 医療体制をさらに充実させる必要がありますし、救急医療はどこでやっているかなど広報についても広報誌等ともっと連携を図るべきです。
- ・ 病院の分け方（一次、二次、三次など）や、小児科や産科といった診療科の不足状況など救急体制における課題をもっと明確にすべきです。
- ・ 最近、患者のたらい回しがよく問題となっていますが、患者のたらい回しを防ぐための対策を具体的に講じる必要があります。現在の状況では、消防職員のストレスを緩和させることが難しいです。
- ・ 伝統文化についても継承・保存に加えてその文化を担う人材の育成が必要です。
- ・ 八尾の魅力を次の世代に伝えていくことが大切です。
- ・ まちづくりについて冊子や地図を作成したりしているが、市民全員に対してその情報を共有できていないと思います。

グループ3 （産業、農業、土地利用、交通）

- ・ 産業は市の活力の源であり、産業全体を活性化させることは重要です。八尾市は中小企業が頑張っている伸びていますが、将来的には不明です。理由は、将来的な振興計画や仕組みがないためです。
- ・ 製造業の町ですが、そのイメージがありません。
- ・ 工場が移転したり廃業したりするとその跡地に住宅が建ちます。そうすると、周辺の工場などが迷惑施設になってしまい、その工場も出て行かざるをえなくなるということになります。また、企業が成長し、工場を拡張したいということになっても、周辺に住宅があると支障が生じます。結果として、事業を拡張するために別の場所に移らざるを得なくなるということも出てきます。具体的な例として、全国的に有効な特許を持っている企業が事業を拡張できないでいます。企業が移転したり廃業した跡地に、勝手に住宅などを建設することができない仕組みづくりや風土づくりが必要ではないでしょうか。
- ・ 産業集積を維持していくためには、企業が流出しない魅力づくりが必要です。ネットワークづくりも然り。道路も狭いので、広くすることも魅力づくりとなると思います。
- ・ 観光にもっと取り組んでいくべきです。しかし、現行の総合計画には観光の項目がありません。市役所には観光を担当する組織もないことは問題です。
- ・ 観光は色々な分野と連携、関係のあるものです。観光客が増えれば商業が活性化することのほか、観光のために何かできないかを市民が考えれば、自分たちの町を見直す効果にもつながり、生活を守ることもできる。きっちりと考えていけば、何でもできる。「八尾市境歩き」というイベントがありましたが、自分の町を見直す機会になりました。
- ・ 歴史的な資源も多数ある。ただし、例えば古墳があるだけでは駄目で、埋蔵物を活用していくなども必要です。
- ・ また、インダストリアル・ツーリズムなどの工場見学や、農業見学などの実施により、他の産業分野との関係も強くなります。
- ・ 強力な観光資源はなくても、それを育てていけばよいと思います。PRが重要です。
- ・ 市役所に組織はないが、現在、産業政策課が地域資源を扱っているので、その流れに入れることができると思います。しかし、民間側にも観光協会や観光ボランティアガイド協会などありません。まずは観光ボランティアガイド協会からつくるのがよいのではないのでしょうか。いずれにしても、まず市民が動いていくことが必要です。
- ・ 農業については、農地が減ってきています。生き延びていくための応援が必要です。例えば、地産地消の推奨。地産地消のために空き商店を活用し、青空市場的にしていくことも考えられます。直売所がありますが、市民に知られていないのではないのでしょうか。PRをしていかなければならないと思います。しかし、生産量が少ないため、中央卸売市場のルートに乗らないようです。このため、生産者が自分の名前を貼って集まって青空市場的に売っていくことが考えられます。羽曳野市の道の駅に八尾市の農家が出品して売っているようです。
- ・ 農業についても、観光からのアプローチがあります。産品としては、イチゴ、若ごぼう、枝豆、新家のしろななどがあります。しかし、生産者・後継者が減り、現在残っているのが若ごぼうと枝豆です。イチゴは企業生産的に行っているようです。

- 市民の方も、地元の農産物を食べるという意識改革が必要です。
- 農地も商店街の空き店舗と同じです。売れるようにしていかなければならないと思います。「農地は自分の所有だから空地にしようと勝手である」というのは良くないと思います。
- 商店街は1つの店が抜けると、他の店も芋づる式に抜けていく傾向があります。大型店が出てくると、短期的には便利になって良いのですが、周りの商店街が抜けた後に、当該店が全国の店の再編に巻き込まれ撤退となったとき、その地域は非常に困ったこととなります。小さい店が集まって賑わう商店街もあり、そのあたりも考えていく必要があります。
- 農業についても工業の職人に対する表彰制度と同じようなものが必要です。

グループ4

(人権、子ども・子育て、教育、文化)

- ・ 学校、地域、家庭を結びつけるネットワークが少しずつできてきましたが、まだまだ不十分です。学校が中心となって、どのようなネットワークを構築していくのかを考えていく必要があるのではないのでしょうか。
- ・ 「特色ある学校づくり」の定義が不明です。「人権のまち八尾」として、「生きる力」とは何かを学校を中心として考えていただきたいです。また、その「生きる力」を向上させていくために、地域で何ができるかを考えるべきです。
- ・ 「生きる力」は学力だけではありません。仲間づくりや人との交流等も必要です。また、その前提として人権が尊重されていることが求められます。こうしたことについて、しっかりとした調査・検討を行うことも必要です。
- ・ 「二極化」という表現が用いられていますが、学校を“できる学校”と“できない学校”に分けて方針を検討していくような単純化は危険です。子どもを中心に何が原因で問題が生じているかをしっかりと分析し、課題があれば親や地域の参画を得て取り組みを進めていくことが求められています。
- ・ 子どもの役割や責任を明確にし、受け身的ではなく主体的なものごとに取り組んでいける子どもを育てていくことが必要です。
- ・ いわゆるモンスターペアレントが話題になったこともあり、保護者が学校にものを言いくい環境ができてしまっています。
- ・ ゲストティーチャー（社会人教師）に関する議論が始まってきたが、まだ十分ではありません。
- ・ 教育サポートセンターができたことは評価しますが、中身についての認識はいまだに広がっていません。教育をサポートするのですから、教員を支える体制、研修制度もこのサポートセンターで担う必要がないのでしょうか。現場の教師が何を必要としているかを把握するため、教師に対するニーズ調査を行うことが求められます。
- ・ 近年、市民や保護者の側からは先生の顔や個性、特色が見えにくくなっています。先生が特色ある活動をしにくくなってきているのではないかと思います。
- ・ 教育サポートセンターやファミリーサポートセンターなどが整備されている点は評価できますが、それらのセンターについての広報が不十分ではないのでしょうか。また、コーディネーターなど必要に応じた人材を確保・養成することも必要だと思います。
- ・ 教育サポートセンターには、子どもが本当に必要としていることをしっかりと把握することが望まれます。
- ・ 家庭保育のサポートを行うため、ファミリーサポートセンターが設置されましたが、まだまだ地域に根ざしているとは言えないです。つどいの広場などとの連携や市民団体へのサポート機能の強化が望まれます。